

愛知県公立大学法人
平成22年度業務実績に関する評価結果

平成23年9月

愛知県公立大学法人評価委員会

目 次

全体評価

- 1 評価結果と判断理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 全体評価に当たって考慮した事項
 - (1) 自主・自律的な大学運営の実現・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (2) 質の高い教育・研究の推進・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - (3) 地域連携の強化・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 3 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

項目別評価

- 1 業務運営の改善及び効率化に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 5
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 2 財務内容の改善に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 7
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 7
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- 3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目
 - (1) 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - (2) 業務達成に向けての取組、進捗状況
 - ア 特筆すべき項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - イ 遅れている項目[評価]・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目・・・・・・・・ 9
 - (3) 評価に当たっての意見、指摘等・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

4	その他業務運営に関する項目	
(1)	評価結果	10
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目[評価]	10
イ	遅れている項目[評価]	10
ウ	法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目	10
(3)	評価に当たっての意見、指摘等	10
5	大学の教育研究等の質の向上に関する項目	
(1)	進捗状況の確認結果	11
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	12
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	13
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	13
(3)	進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等	14

参考

大学別の進捗状況

1 県立大学

(1)	小項目進捗状況	15
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	15
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	15
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	16

2 芸術大学

(1)	小項目進捗状況	17
(2)	業務達成に向けての取組、進捗状況	
ア	特筆すべき項目(年度計画を上回って実施している)	17
イ	遅れている項目(年度計画を十分には実施していない)	17
ウ	法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目	18

参考資料

	愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領	19
	愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿	22

愛知県公立大学法人の平成22年度の業務実績について、「愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領」(後掲)に基づき、次のとおり評価を行った。

評価は、平成22年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行った。

評価項目のうち、「大学の教育研究等の質の向上」については、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行った。

なお、過年度の評価で指摘した事項の改善状況も確認しつつ、平成24年度で中期目標期間が終了するため、中期目標期間の達成度を意識して評価作業を行った。

全体評価

1 評価結果と判断理由

昨年度の評価結果を踏まえ、指摘事項の改善に取り組むとともに、中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向け、

中期計画をおおむね順調に実施していると認められる。

なお、法人化後4年が経過したが、真摯に中期計画、年度計画に取り組み、県立大学と看護大学の統合など課題とされた事項について成果をあげた上で、年度計画を着実に実施していることを評価委員会として積極的に評価する。

(参考)項目別評価一覧

大 項 目	判 断 基 準				
	S	A	B	C	D
業務運営の改善及び効率化 (P 5)			○		
財務内容の改善 (P 7)			○		
自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供 (P 9)		○			
その他業務運営 (P10)		○			
大学の教育研究等の質の向上 (P11)	(事業の外形的・客観的な進捗状況) おおむね順調に実施していることを確認				

評価の判断基準

- S 特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
- A 順調に実施している。(すべて ~)
- B おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
- C 十分に実施できていない。(~ が9割未満)
- D 業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

「業務運営の改善及び効率化」は、計算上、 ~ が89.5%であるが、実質上、Bに相当する。

2 全体評価に当たって考慮した事項 []は中期計画の小項目評価の番号

中期目標の基本的な目標である「自主・自律的な大学運営の実現」、「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」に向けた取り組みを次のとおり確認し、積極的に評価した。

(1) 自主・自律的な大学運営の実現

特筆すべき項目 (評価Ⅳ:年度計画を上回って実施している)

[213] 外部研究資金・自己収入:大学の特性を活用した自己収入増加(P7)

遅れている項目 (評価 :年度計画を十分には実施していない)

[198] 人事の適正化:公平な処遇を実現する人事制度の構築(P5)

[219] 経費の抑制:共通使用物品等の一括購入の拡充(P7)

(2) 質の高い教育・研究の推進

特筆すべき項目 (年度計画を上回って実施している)

[24] 教育:受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】【芸術大学】(P12、P15、P17)

[47] 教育:教育職員養成課程の充実

【県立大学】(P12、P15)

遅れている項目 (年度計画を十分には実施していない)

[26] 教育:教育内容・方法の充実・改善

【芸術大学】(P14、P18)

[113] 研究:研究成果・取組状況の評価等の教員研究費配分への反映

【芸術大学】(P13、P17)

[122] 研究:科学研究費補助金等の申請件数の増加

【県立大学】【芸術大学】(P13、P15、P18)

(3) 地域連携の強化

特筆すべき項目 (年度計画を上回って実施している)

[127] 地域連携:ホームページ、広報誌等を利用した大学情報発信

【県立大学】(P12、P15)

[135] 地域連携:行政との連携

【芸術大学】(P12、P17)

[149] 地域連携:産業界との連携

【芸術大学】(P12、P17)

[159] 地域連携:地域の芸術文化の普及

【芸術大学】(P12、P17)

[166] 地域連携:国際交流の推進

【県立大学】【芸術大学】(P13、P15、P17)

遅れている項目 (年度計画を十分には実施していない)

なし

3 評価に当たっての意見、指摘等

業務実績報告書は、簡潔・明瞭に記載するとともに、表やグラフ等を用いるなどわかりやすい報告書になってきているが、今後とも、具体的な記述に心がけ、計画に対する措置や達成状況などをわかりやすく記載することにより、県民への説明責任を十分果たされることを期待する。

なお、中期目標・中期計画期間の6年間のうち、4年間が経過し、残りは2年間であるため、遅れている項目、〔198〕人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築等については、これまで以上のスピード感を持って実現に向け取り組むことが必要である。

(参考) 中期計画(平成19年度～平成24年度)の項目数

大項目	小項目	うち
		22年度評価 対象項目数
第1 大学の教育研究等の質の向上	170	121
第2 業務運営の改善及び効率化	36	16
第3 財務内容の改善	15	14
第4 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供	9	9
第5 その他業務運営	16	12
計	246	172

項目別評価

1 業務運営の改善及び効率化に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)	評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
「A」順調に実施している。(すべてⅢ～Ⅳ)	ウェイト考慮後の合計	0	2	17	0	19
「B」おおむね順調に実施している。(～が9割以上)	評価対象項目数		1(1)	15(2)		16(3)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)	運営体制の改善			5(2)		5(2)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)	教育研究組織の見直し			3		3
	人事の適正化		1(1)	5		6(1)
	事務等の効率化及び合理化			2		2

(参考)21年度評価
「B」おおむね順調に実施している

評価区分 I 年度計画を実施していない。
II 年度計画を十分には実施していない。
III 年度計画を十分に実施している。
IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。

- ・運営体制の改善：財政基盤の強化〔171〕
法人固有職員の登用〔181〕
- ・人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築〔198〕

※ 計算上、Ⅲ～Ⅳが89.5%であるが、実質上、Bに相当する。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目〔評価Ⅳ〕

なし

イ 遅れている項目〔評価Ⅱ〕

〔198〕人事の適正化：公平な処遇を実現する人事制度の構築

教員については、努力と勤務実績に基づく公平な処遇を実現する人事制度が、いまだ構築されていない。

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

〔197〕 人事の適正化：年俸制の導入の検討

年俸制については、任期制の導入対象が限定的であること、また、そもそも前提となる教員の成績評価制度も実施していないことから、現段階で導入しないとしたことは理解できるが、同評価制度が実施され、定着した際には年俸制の導入について再検討されたい。

2 財務内容の改善に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)	←	評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
「A」順調に実施している。 (すべてⅢ～Ⅳ)		ウェイト考慮後の合計	0	1	13	1	15
「B」おおむね順調に実施している。 (～ が9割以上)		評価対象項目数		1	12(1)	1	14(1)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)		外部資金その他の 自己収入の増加			5(1)	1	6(1)
「D」業務の大幅な見直し、改善 が必要である。(特に認める 場合)		経費の抑制		1	5		6
		資産の運用管理の改善			2		2

(参考)21年度評価

「B」おおむね順調に実施している

評価区分 I 年度計画を実施していない。
II 年度計画を十分には実施していない。
III 年度計画を十分に実施している。
IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。

・外部研究資金・自己収入：積極的な学生募集による学生納付金の確保〔209〕

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価]

なし

イ 遅れている項目 [評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

〔213〕 外部研究資金・自己収入：大学の特性を活用した自己収入増加

法人自己評価

評価委員会評価

理由 県立大学の看護実践センターにおいて、現職看護師のキャリアアップを図る認定看護師の養成等を行うことにより、収入の増加を図るという年度計画を達成し、さらに、履修証明プログラム「医療分野ポルトガル語・スペイン語講座」を科目等履修生として受け入れる仕組みを整えたことから、「年度計画を上回って実施している」と判断できる。

〔219〕 経費の抑制：共通使用物品等の一括購入の拡充

法人自己評価

評価委員会評価

理由 年度計画では共通使用物品等の一括購入の拡充を図るとあるが、実施状況では大量購入可能な品目はコピー用紙に限られたとあり、一括購入の拡充を図ったとは言えないため、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

〔208〕 外部研究資金・自己収入：授業料等学生納付金の見直し

年度計画では授業料等学生納付金について、受益者負担などの観点から適正額を設定するとあるが、その検討過程を明確にすることが望ましい。

3 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)
(参考)21年度評価 「A」順調に実施している



評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	10	0	10
評価対象項目数			9(1)		9(1)
評価の充実			6		6
情報公開等の推進			3(1)		3(1)

評価区分 I 年度計画を実施していない。
 II 年度計画を十分には実施していない。
 III 年度計画を十分に実施している。
 IV 年度計画を上回って実施している。

※ () 内は法人がウェイト加算した項目数で、その内容は次のとおり。
 ・情報公開等の推進：県民・地域への積極的な情報発信〔228〕

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

- ア 特筆すべき項目 [評価]
なし
- イ 遅れている項目 [評価]
なし
- ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目
なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

なし

4 その他業務運営に関する項目

(1) 評価結果

「S」特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
「A」順調に実施している。 (すべて ~)
「B」おおむね順調に実施している。(Ⅲ～Ⅳが9割以上)
「C」十分に実施できていない。(Ⅲ～Ⅳが9割未満)
「D」業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

評価区分ごとの項目数	I	II	III	IV	計
ウェイト考慮後の合計	0	0	12	0	12
評価対象項目数			12		12
施設・設備の活用等			1		1
安全管理			7		7
社会的責任			4		4

(参考)21年度評価
「A」順調に実施している

評価区分 I 年度計画を実施していない。
II 年度計画を十分には実施していない。
III 年度計画を十分に実施している。
IV 年度計画を上回って実施している。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目 [評価]

なし

イ 遅れている項目 [評価]

なし

ウ 法人による自己評価と評価委員会の評価が異なる項目

なし

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

[231] 施設・設備：良好な教育研究環境の確保

[237] 安全管理：教職員及び学生の安全確保

[238] 安全管理：安全対策マニュアルの作成

平成22年度に実施された芸術大学の大学機関別認証評価における主な改善を要する点として、「(施設の)老朽化に伴い、教育研究環境、及び文化的資料保存の面で看過できない問題を有している」と指摘されており、施設面での早急な対応と、東日本大震災の教訓を踏まえた安全対策の検討が必要である。

5 大学の教育研究等の質の向上に関する項目

(1) 進捗状況の確認結果

<p>【事業の外形的・客観的な進捗状況】</p> <p>法人全体及び各大学について、いずれもおおむね順調に実施していることを確認</p>	<p>(参考) 21年度評価</p> <p>【事業の外形的・客観的な進捗状況】</p> <p>おおむね順調に実施していることを確認</p>
---	--

* 「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮し、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価するため、専門的な観点からの評価は実施せず、事業の外形的・客観的な進捗状況の確認を行う。

<参考>

[各大学別小項目進捗状況]

区 分		教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	総合	0	0	0	0	0.0
	県大	0	0	0	0	0.0
	芸大	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	総合	1	2	0	3	2.5
	県大	0	1	0	1	1.0
	芸大	1	2	0	3	4.2
年度計画を十分に実施している	総合	58	17	37	112	92.6
	県大	50	17	27	94	95.0
	芸大	33	11	20	64	88.9
年度計画を上回って実施している	総合	2	0	4	6	4.9
	県大	2	0	2	4	4.0
	芸大	1	0	4	5	6.9
計	総合	61	19	41	121	100.0
	県大	52	18	29	99	100.0
	芸大	35	13	24	72	100.0

1つの大学が対応する項目と2つの大学が対応する項目があるため、総合の項目数は各大学の項目数と一致しない。

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

〔24〕教育：受験生に対する広報活動の充実

【県立大学】

他大学との合同説明会の実施、大学紹介のDVD作成など受験生に対する広報活動を充実させた。

【芸術大学】

オープンキャンパスにおいて、ワンポイントレッスンや弦楽合奏セミナーなどを実施し、受験生に対する広報活動を充実させた。

〔47〕教育：教育職員養成課程の充実

【県立大学】

教職課程のさらなる充実のために、教材作成室の整備やホームページに教職支援ページを開設した。

〔127〕地域連携：ホームページ、広報誌等を利用した大学情報発信

【県立大学】

ホームページによる情報発信に加え、新たに大学の特色や研究者の実績を掲載した広報誌「愛知県立大学の特色～さらなる地域連携を目指して～」を作成し、地域連携情報を広く発信した。

〔135〕地域連携：行政との連携

【芸術大学】

新たに長久手町と包括連携協定を締結した。

〔149〕地域連携：産業界との連携

【芸術大学】

美術学部においては、企業等からの受託研究が大幅に増加し、また、年度計画にな
い音楽学部においても企業と連携して演奏会を実施した。

〔159〕地域連携：地域の芸術文化の普及

【芸術大学】

あいちトリエンナーレ2010やCOP10と積極的に連携して事業を行ったのを始め、瀬戸内国際芸術祭にも拠点を設置して参加し、また、演奏会等のアウトリーチ活動を展開して地域の芸術文化普及に貢献するなど、大学の知名度を高めた。

〔166〕 地域連携：国際交流の推進

【県立大学】

年度計画で実施することとした学術交流協定校との交流に加えて、新たにガジャマダ大学及びサンパウロ大学と学術交流協定を締結した。

【芸術大学】

年度計画で実施することとした協定校との交流に加えて、新たにケルン音楽大学、ボストン美術館芸術大学、シラパコーン大学等と国際交流協定を締結した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

〔113〕 研究：研究成果・取組状況の評価等の教員研究費配分への反映

【芸術大学】

年度計画では教員の表彰制度を整備し順次実施するとあるが、教員評価制度と一本化すべきではとの考えから再検討することとなり、表彰制度は実施されていない。

〔122〕 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加

【県立大学】

科学研究費補助金等の申請件数、申請率ともに増加しているものの、年度計画の教員全員が申請するという目標には、なお届かない申請率であった。

【芸術大学】

科学研究費補助金等の申請件数は減少し、年度計画の申請件数を17件以上とするという目標を達成できなかった。

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

〔10〕 教育：人間発達学研究科博士後期課程の設置認可

【県立大学】

法人自己点検「年度計画を上回って実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分に実施している」

理由 自己点検では、文科省の設置認可が厳しくなる中であって、意見や留意事項を付されることなく無条件で認可を受けたため「年度計画を上回って実施している」としているが、年度計画どおり設置認可を受けたものであって、「年度計画を上回って実施している」とまでは言えないと判断する。

〔26〕教育：教育内容・方法の充実・改善

【芸術大学】

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」

理由 大学機関別認証評価において「授業評価アンケートや教員の自己点検・評価の結果の組織的活用が行われていない」と指摘されていることから「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

(3) 進捗状況の確認に当たっての意見、指摘等

〔122〕研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加

【県立大学】【芸術大学】

採択件数が増えていることは評価すべきであるが、申請件数で目標達成できなかった点について、きめの細かな分析をし、今後の対応策を検討する必要があると考える。

(参 考)

大学別の進捗状況

1 県立大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	0	1	0	1	1.0
年度計画を十分に実施している	50	17	27	94	95.0
年度計画を上回って実施している	2	0	2	4	4.0
計	52	18	29	99	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

〔24〕教育：受験生に対する広報活動の充実

他大学との合同説明会の実施、大学紹介のDVD作成など受験生に対する広報活動を充実させた。

〔47〕教育：教育職員養成課程の充実

教職課程のさらなる充実のために、教材作成室の整備やホームページに教職支援ページを開設した。

〔127〕地域連携：ホームページ、広報誌等を利用した大学情報発信

ホームページによる情報発信に加え、新たに大学の特色や研究者の実績を掲載した広報誌「愛知県立大学の特色～さらなる地域連携を目指して～」を作成し、地域連携情報を広く発信した。

〔166〕地域連携：国際交流の推進

年度計画で実施することとした学術交流協定校との交流に加えて、新たにガ ज्याマダ大学及びサンパウロ大学と学術交流協定を締結した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

〔122〕研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加

科学研究費補助金等の申請件数、申請率ともに増加しているものの、年度計画の教員の全員申請という目標には、なお届かない申請率であった。

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

〔10〕教育：人間発達学研究科博士後期課程の設置認可

法人自己点検「年度計画を上回って実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分に実施している」

理由 自己点検では、文科省の設置認可が厳しくなる中であって、意見や留意事項を付されることなく無条件で認可を受けたため「年度計画を上回って実施している」としているが、年度計画どおり設置認可を受けたものであって、「年度計画を上回って実施している」とまでは言えないと判断する。

2 芸術大学

(1) 小項目進捗状況

区分	教育	研究	地域連携	合計	(%)
年度計画を実施していない	0	0	0	0	0.0
年度計画を十分には実施していない	1	2	0	3	4.2
年度計画を十分に実施している	33	11	20	64	88.9
年度計画を上回って実施している	1	0	4	5	6.9
計	35	13	24	72	100.0

(2) 業務達成に向けての取組、進捗状況

ア 特筆すべき項目（年度計画を上回って実施している）

〔24〕 教育：受験生に対する広報活動の充実

オープンキャンパスにおいて、ワンポイントレッスンや弦楽合奏セミナーなどを実施し、受験生に対する広報活動を充実させた。

〔135〕 地域連携：行政との連携

新たに長久手町と包括連携協定を締結した。

〔149〕 地域連携：産業界との連携

美術学部においては、企業等からの受託研究が大幅に増加し、また、年度計画にない音楽学部においても企業と連携して演奏会を実施した。

〔159〕 地域連携：地域の芸術文化の普及

あいちトリエンナーレ2010やCOP10と積極的に連携して事業を行ったのを始め、瀬戸内国際芸術祭にも拠点を設置して参加し、また、演奏会等のアウトリーチ活動を展開して地域の芸術文化普及に貢献するなど、大学の知名度を高めた。

〔166〕 地域連携：国際交流の推進

年度計画で実施することとした協定校との交流に加えて、新たにケルン音楽大学、ボストン美術館芸術大学、シラパコーン大学等と国際交流協定を締結した。

イ 遅れている項目（年度計画を十分には実施していない）

〔113〕 研究：研究成果・取組状況の評価等の教員研究費配分への反映

年度計画では教員の表彰制度を整備し順次実施するとあるが、教員評価制度と一本化すべきではとの考えから再検討することとなり、表彰制度は実施されていない。

〔122〕 研究：科学研究費補助金等の申請件数の増加

科学研究費補助金等の申請件数は減少し、年度計画の申請件数を17件以上とするという目標を達成できなかった。

ウ 法人による自己点検と評価委員会の判断が異なる項目

〔26〕 教育：教育内容・方法の充実・改善

法人自己点検「年度計画を十分に実施している」

評価委員会判断「年度計画を十分には実施していない」

理由 大学機関別認証評価において「授業評価アンケートや教員の自己点検・評価の結果の組織的活用が行われていない」と指摘されていることから、「年度計画を十分に実施している」とは判断できない。

< 参考資料 >

愛知県公立大学法人の各事業年度の業務実績評価実施要領

1 趣旨

愛知県公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が行う愛知県公立大学法人（以下「法人」という。）の各事業年度の業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）の実施に関し必要な事項を定める。

2 評価方針

年度評価は、次に掲げる方針により行う。

- (1) 大学の教育研究の特性や大学運営の自主性・自律性に配慮しつつ、大学改革の推進に向けた継続的な質的向上に資する。
- (2) 中期計画に定めた項目ごとの各年度における具体的な実施状況について調査・分析し、進捗状況等の達成度を踏まえた業務全体を評価することにより、業務運営の改善、充実に資する。
- (3) 評価の過程を通じて、法人の業務達成に向けての取組、進捗状況を明確にすることにより、県民への説明責任を果たす。
- (4) 評価に関する作業が法人の過重な負担とならないように配慮する。

3 評価方法

年度評価は、各年度における中期計画の各項目の進捗状況を確認する「項目別評価」と、その結果等を踏まえつつ、中期計画の進捗状況全体について総合的に評価する「全体評価」により行う。

年度評価の実施に当たっては、法人が中期計画の項目ごとに各年度における業務実績を記入し、その進捗状況を法人自らが評価した業務実績報告書（以下「報告書」という。）を作成し、評価委員会に提出する。

評価委員会は、報告書に基づき法人からヒアリングを行い、調査・分析し評価する。

項目別評価

当該年度計画に定める各項目について、その達成状況を確認することにより、各年度における中期計画の進捗状況を確認し、以下のア～ウにより評価する。

なお、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」に関する項目は、教育研究の特性に配慮するため、認証評価機関の評価結果を踏まえて評価する。

したがって、年度評価においては、専門的な観点からの評価は実施せず、法人は、中期計画の項目ごとに事業の外形的・客観的な進捗状況を

記述式により記載し、評価委員会は、その確認を行うこととする。

ア 法人による自己点検・自己評価

法人は、報告書において中期計画の小項目ごとに ~ ランクの4段階で評価し、計画の実施状況及び判断理由を記載する。

また、大項目ごとの特記事項に法人として特色ある取組や大学運営を円滑に進めるための工夫などアピールできる事項等を記載する。

ランク	評 価 基 準
	年度計画を上回って実施している。
	年度計画を十分に実施している。
	年度計画を十分には実施していない。
	年度計画を実施していない。

イ 評価委員会による法人の自己評価の検証

中期計画の小項目ごとに、法人の自己評価や計画設定の妥当性も含めて総合的に検証し、達成状況について上記の4段階で評価を行うとともに、法人による自己評価と評価委員の判断が異なる場合には、その理由等を示す。

また、必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

ウ 評価委員会による評価

小項目ごとの評価結果と特記事項の記載に基づき、大項目ごとに進捗状況について、S、A、B、C、Dランクの5段階で評価する。

なお、小項目ごとの評価結果については、あらかじめ法人が項目ごとの重要性を考慮して設定したウエイトを踏まえて評価する。

ランク	評 価 基 準
S	特に優れた実績を上げている。(特に認める場合)
A	順調に実施している。(すべて ~)
B	おおむね順調に実施している。(~ が9割以上)
C	十分に実施できていない。(~ が9割未満)
D	業務の大幅な見直し、改善が必要である。(特に認める場合)

全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、事業の実施状況、業務の運営状況など、法人の活動全体について記述式により評価する。

なお、中期目標の基本的な目標である「質の高い教育・研究の推進」、「地域連携の強化」、「自主・自律的な大学運営の実現」に向けた取組を積極的に評価する。

4 報告書の提出

報告書は、別紙様式により、毎年6月末日までに評価委員会に提出する。

5 評価結果

- (1) 評価結果は、法人に通知する。
- (2) 評価委員会は、必要があると認めるときは、法人に対して業務運営の改善その他の勧告を行う。
- (3) 評価委員会は、前2項における内容を知事に報告するとともに、公表する。

6 評価結果の反映

- (1) 評価結果がB～Cランクの項目については、法人が自主的に業務運営の改善等の所要の措置を講ずる。
- (2) 評価結果がDランクの項目については、原則として業務運営の改善その他の勧告を行う。

愛知県公立大学法人評価委員会委員名簿

氏 名	職 名
おおば かずこ 大羽 和子	中部大学応用生物学部教授
くき あやこ 九鬼 綾子	ミックインターナショナル株式会社代表取締役
さとう もとひこ 佐藤 元彦 (委員長代理)	愛知大学理事長・学長
なくら まちこ 名倉 真知子	公認会計士
やまもと しんいち 山本 進一 (委員長)	名古屋大学大学院生命農学研究科教授

(五十音順、敬称略)